

競技進行上の内規

- (1) 本大会の試合は6イニング制とし、**3回以降10点差及び4回以降は7点差**をもってコールドゲームとする。
- (2) 試合時間は90分とし新しいイニングに入らない。
- (3) 本大会の試合は、時間内6回までとする。同点の場合はタイブレークを最大2イニング行い、得点の多いほうを勝ちとする。その後同点の場合は抽選とする。
ただし、決勝戦は勝敗が決するまで、タイブレークを繰り返し、勝敗を決める。
- (4) グランドルールで特に定められた以外は、公認野球規則及び競技者必携による。
- (5) 暗黒、降雨その他、球審によって試合打ち切りを宣告された場合（コールドゲーム）は、5回（4回1/2）終了で成立、同点の場合は抽選とし、不成立の場合は継続試合とする。
- (6) 投本塁間は16m、塁間23mとする。
- (7) ベースは固定ベースとする。ただし、大会運営上、固定ベースとしない場合がある。
- (8) 本連盟大会についてDH制を採用する。ただしいわゆる大谷ルールは適用しない。

競技運営に関する注意事項

- (1) 各チームは、試合開始予定時間30分前に大会本部にメンバー表6通（フルネーム・ふりがな・登録メンバーを全員記入すること）を提出し、登録選手の照合を受けること。次試合以降は、前の試合の**3回終了時**または、試合開始30分前までにメンバー表を提出すること。その際、ジャンケンにて攻守の決定を行う。
- (2) ベンチは組み合わせ番号の若いほうを一塁側とする。
- (3) 試合開始予定時刻前でも、原則として、前の試合が終了して20分後に次の試合を開始する。
- (4) 試合開始予定時刻を経過しても球場に9名現れないチームは棄権とみなす。
- (5) タイブレークは以下の方法で行う。
 - ① 継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者、二塁の走者は順次前の走者とする。
すなわち、ノーアウト1塁2塁の状態から行うものとする。
 - ② タイブレークは代打、代走及び守備交代を認める。
- (6) 抽選は以下の方法で行う。
 - ① 審判員及び試合終了時に出場していた両チームのメンバーが試合終了挨拶の隊形に整列する。
 - ② 抽選用紙に○印、×印、各9枚記したものを封筒に入れる。
 - ③ 球審が18枚の封筒を持ち、先攻チームより、1枚ずつ交互に選ばせる。
 - ④ 2人の審判員が、両チームの選んだ封筒を集め、それぞれ監督立会いのもとに開封し、○印の多いほうを抽選勝ちとする。
- (7) 審判員は川口市少年軟式野球連盟・スポーツ少年団公認審判員が行い、市公認審判員は団の監督・コーチを兼任することができない。
- (8) 試合中又は、グラウンド内においての指導者、応援席よりの好ましくない野次・マナーに対しては、審判員又は控審判員はそのチームに対して厳重に注意、又は本人に対し退場を与えることができる。
- (9) 試合中（試合前の練習を含む）ベンチに入れる人員は、監督1名、コーチ3名以内、スコアラー1名以内、マネージャー1名以内、選手20名以内、計25名までとする。（ただし、監督・コーチ・スコアラー・マネージャーの合計は5名以内）（スコアラー・マネージャーは指導者資格を問わない）（修正）
- (10) 背番号は監督30番、コーチ29番から21番、選手は主将10番、その他は0番から20番とする。
- (11) 試合開始・終了挨拶時は、監督、コーチ、スコアラー、マネージャー（追加）はベンチ前に整列をすること。
- (12) **指導者によるブルペン捕手、イニング間の準備投球捕手、キャッチボールを認める。**捕手をする際はマスクを着用すること。
- (13) 球場内はトスバッティングのみ認める。
なお、スイングについては指導者が立ち会い、安全を確保する。
- (14) シートノックは5分間とする。ただし、大会運営上、時間を短縮または、シートノックを行わずに試合を開始することがある。
シートノックは、ホーム1か所のみとし、後攻チームから行う。

捕手は、マスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガースおよびファールカップを着用する。
ノッカーも必ず選手と同様のユニフォームを着用すること。

ボールボーイはヘルメットを着用すること。

補助員として、指導者を認める。ダートサークル内に入る補助員はヘルメットを着用すること。

(15) 投手の投球は、直球のみとする。

(16) 1人の投手の1日の投球数は5年生以上70球、4年生以下は60球とする。

試合中に70球（4年生以下は60球）に到達した場合は、その打者が打撃を完了するか、攻守交替の時まで投球することができる。

ボークにもかかわらず投球をしたものは、投球数にカウントする。

牽制球や、送球とみなされるものは投球数にカウントしない。

投球数のカウントは、当該試合チームより各1名を本部に派遣し、管理は大会本部が行う。

(17) 投手の12秒、20秒ルールを適用する。

(18) 投手の準備投球は1分以内かつ、初回7球以内、その他は3球以内、再登板は5球以内とする。

(19) 投手が手首にリストバンド(サポーター)等を使用することを禁止する。なお、負傷等で、手首に包帯等を巻く必要がある場合は、大会本部の許可を求めること。

投手がアームスリーブを着用する場合は、アンダーシャツと同色かつ両腕にすること。

野手のアームスリーブは色を問わず、片腕のみでも可とする。

打者・走者・守備時のリストバンド、手袋及びスライディングミットの使用を認める。

(20) 捕手は、必ずマスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガースおよびファールカップを着用すること。控え捕手も攻守交代時、シートノック、グラウンド内で投球を受ける場合は着用すること。

(21) 打者、走者及びコーチャーボックスに入る者は、危険防止のため耳付きヘルメットを着用すること。

(22) バットは、木製のほか、連盟公認の金属バットを使用すること。また、安全性を考慮し、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合（金属/カーボン）バットについては使用制限を行わない。注）少年用バットの使用制限は行わない

(23) 申告敬遠は監督のみ申し出ることができる。

(24) 抗議は、主将と当該プレーヤー、監督のみとする。

(25) ベンチ内での電子機器類(携帯電話・パソコン等)の使用を禁止する。ただし、電子スコア記録用として1台の使用を認める。

(26) ベンチ内でのメガホンの使用は1個、監督に限り認める。

(27) 試合開始前、ベンチ前での練習は安全確保のため禁止とし、外野での練習を可とする。

(28) 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは禁止とし、ブルペン、外野ファールグラウンドでのキャッチボールは2組4名以内を認める。安全確保のため指導者1名をつけること。

(29) ファールボールはベンチサイドで処理する。ただしバックネット前は、攻撃側で処理する。

(30) 選手交代は必ず球審に申し出ること。

(31) タイムの回数は、監督3回、選手3回、攻撃3回とする。

なお、タイブレークは1イニングに1回とする。

(32) 次打者は必ず次打者席に低い姿勢で入ること。

(33) 次打者席は自分席側とする。打席につく際、不要のバット等をグラウンドに置いて行かないこと。

(34) 内野手の転送球は、そのイニングが始まる前(投手の規定投球が済んだ時)のみとする。

(35) 投手が投球姿勢に入ったら声出し応援を禁止する

(36) 同一チームの選手・監督・コーチは同色、同形のユニフォーム(帽子、ストッキングを含む)を着用しなければならない。(合同チーム及び補充選手を除く、ただし背番号の重複は認めない)

ズボンのロングパンタロン型を禁止する。

アンダーソックスの上にストッキングを履き、アンダーソックスが見える状態とすること。

ベンチ内でのショートパンツを禁止する。

(37) 単独チームとして4年生以上の団員が9名以下の場合、合同チームを結成して大会に出場することができる。1年を通じて同一チームとして活動を行う場合は、上部大会への出場資格も与える。

(38) 単独チームとして4年生以上の団員が9名以下の場合、他チームより選手を補充して大会に出場することができる。この場合、上部大会への出場資格は与えない。また、補充された選手は、所属チームとの同一大会における二重登録は認めない。